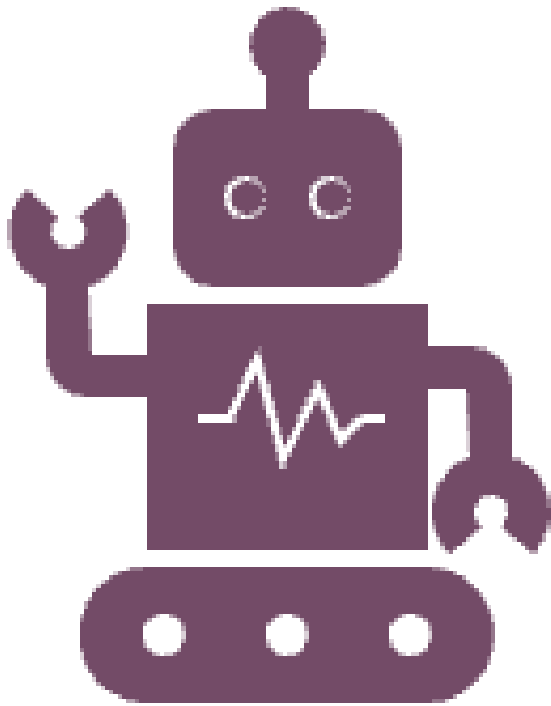

News picks

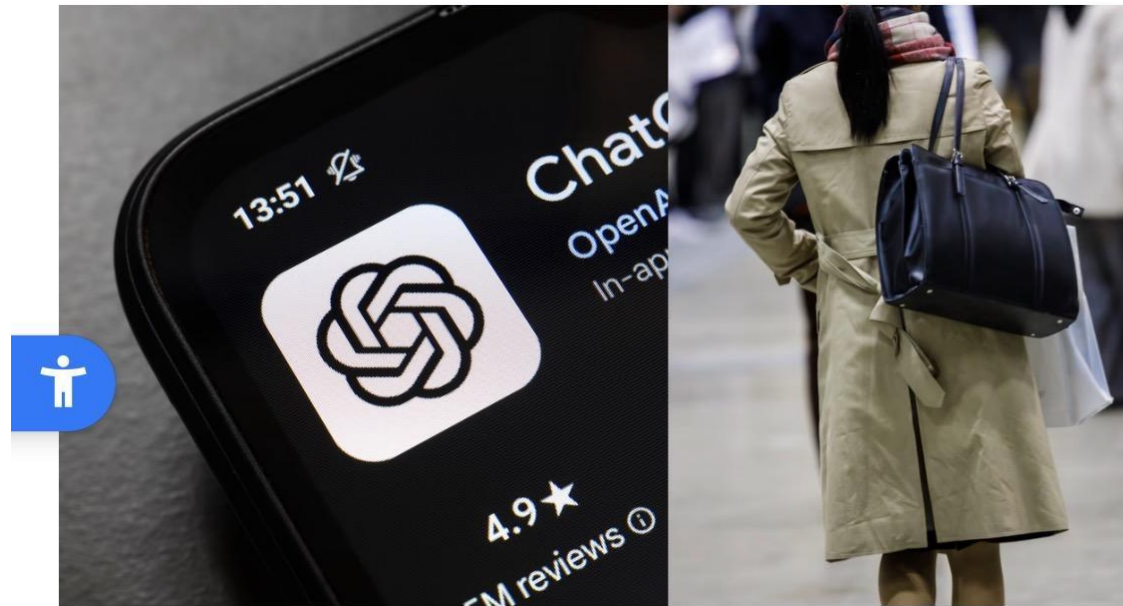
22161280 阿部 航大

大学生が見た「ChatGPTに丸投げ」就活の末路。コピペES、セリフ丸暗記で「思考停止」・・・AI就活の落とし穴



- 現在、AIツールであるChatGPTなどは様々な場面で世代を問わず使われるようになってきた、「AI」の力を借りるのが当たり前になってきている。

就職活動におけるChatGPTの利用



- 大学生における一大イベントである就職活動においてもChatGPTは学生たちにとって欠かせないAIツールとなってきた。
- しかし、便利なはずのAIも、使い方を間違えれば、私達を様々な場面での成功から遠ざける“悪魔のツール”になりかねない。

「それはうちの強みではないんだけど」

実際に書類作成、企業分析、面接対策の全てをChatGPTに頼り切ってしまった学生は情報のファクトチェックを行わず信じ切ってしまったことで大失敗につながった。

また本番の面接で、暗記したはずのChatGPTの模範解答が全て飛んでしまった例なども挙げられる。答えに詰まった面接は当然うまくいかず企業からは「お祈りメール」が送られてくる日々だった。

考えることの 重要性

ChatGPTに頼りすぎてしまったことで自分の考えが上手く言葉で言い表すことができなくなってしまっている。

ESに記載した内容の深堀りなどがされても自分が思っていること考えていることではないため、何を話せばいいかわからなくなってしまおう。

自分の言葉で表現することが「自分の本音」を伝える上で重要になってくるのだろう。

企業側の採用

書類審査、Webテストなどでもほとんどの学生が生成AIを利用するため企業側は学生の能力や本音を見分けることが難しくなってきたりしている。

しかし、少なくとも言えることは、思考停止して「AIに丸投げする学生」と自らの能力を最大化するための武器として「使いこなす学生」とでは、雲泥の差があるということだ。

コメント

- 東日本大震災の直後、福島県の会社で採用を担当していましたが、志望動機を聞くと、ほぼ100%「地元貢献したいので御社を志望しました」と…。「あなたにとって地元貢献って何??」と聞くと「・・・」、自分の言葉で想いを伝えてきた学生さんは記憶にありません…。就職課の方なのか就活情報媒体なのか、何らかのツールからの受け売りだったのではと思います…。
 - AIに丸投げするのも、ツールの意味を理解しないまま利用している…ということなのでしょう…。ツール=道具な訳で、金槌で木材は切れません。どんな家を作りたいか(作るのか)…設計図がしっかりしていないと、素晴らしい道具もただ邪魔な物。道具は使う人を丸裸にもしてしまう怖いものだと思います…。
-

感想

- 自分自身も就職活動で生成AIを用いて書類の作成などを行ったが、ほとんど頼って受けた市役所は2次面接で不合格となった。今振り返ってみると、ただの丸暗記になってしまっていたと感じる。書類は通過しても面接では学生の本音、熱意が現れやすいため、生成AIだけでの対策はほとんど通用しないと感じた。
 - 一方で、生成AIを自分の言いたいことの要約や文章の添削などに用いれば大きな武器になるのではないかと感じた
-